



市長
メッセージ

もりなか たかふみ
森中 高史市長の

元気ヤマモリ

認知症の人が尊厳と希望を持って 暮らせる共生社会の実現に向けて

7月28日に発生した「令和8年熊本地震」でお亡くなりになられた方々のご冥福をお祈りするとともに、被災された皆さまにお見舞い申し上げます。また、現地で支援活動に当たっているすべての皆さまに感謝申し上げます。

当市では、住家被害認定調査のため応援職員を宇土市に派遣したほか、要請に応じ迅速に支援できるよう、保健師などの専門職や給水車などの派遣準備を整えているところです。

被災地の1日も早い復旧・復興をお祈りしています。

さて、9月は認知症月間です。

認知機能（記憶、判断力など）が低下する認知症は、年齢などを問わず、誰もがなり得るものであり、もし自分や家族が認知症になっても、安心して暮らし続けられる共生社会の実現は、極めて重要な課題です。

そのため当市では、認知症のご本人や支える家族の思いを尊重し、住み慣れた地域で自分らしく暮らせる環境づくりに取り組んでいます。

具体的には、地域の人に認知症への正しい理解と、地域での見守り・支援の輪を広げていくために、市内各所

で「認知症サポーター養成講座」を開催しています。地域住民のみならず、金融機関や商業施設の従業員、また市内小中学校の学生など、これまでに2万3,000人以上に受講いただきました。

また、認知症の人やご家族、地域の人が気軽に交流できる認知症カフェ（「オレンジカフェ」「みまも〜り〜♡カフェ」）を開催し、ほっとできる居場所づくりを進めています。

さらに、行方不明高齢者等SOSネットワークにより、あらかじめご本人の情報を市・警察署などで共有し、行方不明時の早期発見・保護に努めるとともに、個人賠償責任保険の加入支援やGPS機器購入費の補助など、ご本人と家族が安心して暮らせる支援も行っています。

また、認知症は早期発見が重要です。市では専門家が考案した脳トレゲーム「CogEvo[®]」の体験会で楽しく認知機能をチェックし、生活習慣のアドバイスをを行っています。

さらに、認知症の人と家族を地域で支え、より良い医療と福祉が提供できることを目的として、守山野洲医師会と連携型認知症疾患医療センター 藤本クリニックを中心に、「認知症の医療と福祉の連携 IN 守山・野洲」を平成24年度から継続的に開催いただき、医療・福祉・行政などの多職種連携の充実を図っています。

今号では、認知症月間にちなんだ特集記事を作成しています。各種啓発イベント情報も掲載していますので、ぜひ6・7頁の記事をご覧ください。

今後も市民の皆さんと力を合わせて、地域で温かく支え合う共生社会の実現に努めてまいります。

アートがつなぐ展覧会 Moriyama若手芸術家の作品展

☎ 524-8585 吉身二丁目5-22 社会教育・文化振興課 ☎・☎ (582) 1142 ☎ (582) 9441

時 11月6日(金)～12日(木) 午前9時～午後5時(最終日は午後3時まで)

所 市役所 1階 多目的ホール

作品募集

対 下記のすべてを満たす人

- ・市内在住・在学・在勤または当市出身。グループで応募の場合は、代表者が該当していれば可
- ・16～50歳(令和9年3月末時点)
- ・プロ・アマ問わず、芸術と真摯に向き合い、将来にわたり芸術家として活動しようとしている

部門 平面、立体、工芸、書、写真

申 10月12日(月・祝)までに右記申込フォーム、郵送(必着)または直接、上記へ。応募用紙は、上記に設置。

※応募後、担当者から確認の連絡をします。

※搬入・搬出など詳しくは、市HPをご覧ください。

他・応募多数の場合は、出品者に相談のうえ、作品数を限定します。

- ・当作品展は作品の発表・披露と展示機会の創出を目的としており、賞は設けません。
- ・募集要項は、市HPまたは、市立図書館、北部図書館、各地区会館、駅前総合案内所、エルセンターなどに設置のチラシをご覧ください。



出品・入場
無料



ホームページ



申込フォーム